

豊島区立池袋幼稚園（2年目）

【園長】 岩本 卯月 【幼児数】 20 名 【学級数】 2 学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・安全を確保しながら幼児のイメージを取り込み、遊び込む環境設定について、今後も研究を重ねていく。
- ・静的な遊びを好む幼児に対し、今後、好きな遊びの時間に幼児の動的な遊びへの意欲が高まるよう、研究で探った援助の工夫を実践しながら保育を進めていく。

目標

- ・自分のやりたいことに向かって、心と体を十分に働かせ、体を動かし多様な動きを楽しむ幼児（夢中になって遊ぶ幼児）を育成する。
- ・幼稚園で行う運動遊びの時間が楽しいと思う幼児の割合を維持する。（90%以上）
- ・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き、やや好きな幼児の割合を増やす。（90%以上）
- ・1日の運動時間が1時間以上の幼児の割合を増やす。（90%以上）

【成果】

- ・夢中になって遊び込む姿とは、幼児が教師の設定した環境から刺激を受け、取り組んだ遊びを繰り返したり、自身の先行経験と結びつけることで遊びを広げたりする姿であると分かった。
- ・幼児の遊びのイメージを探りながら活動を工夫することで、教師が幼児をより観察しようとする意識が高まった。幼児の興味をさらにかきたてるような活動の工夫を提案できるようになった。
- ・アンケートでは、令和6・7年度を通して「幼稚園で行う運動遊びの時間が楽しいと思う」が100%であり、幼児が幼稚園での活動を楽しんでいたことが分かった。また、「運動やスポーツをするときは、1日にどのくらいの時間しますか」では、「1時間以上」と回答した幼児が令和6年度6月の84%から令和7年度6月には93%になった。

【実態・課題】

- ・体を動かすことが好きな幼児が多い一方で、運動意欲に個人差が見られる。
- ・少人数学級のため、教師がより丁寧な援助ができる一方で、友達関係が固定化しやすく、遊びの幅が広がりにくい傾向にある。
⇒様々な動きが経験できるような環境を構成したり、交流活動を計画したりすることで、「やってみよう」「もっとやろう」と運動に意欲的に取り組めるようにする。

【取組】

- 事例検討
 - ・幼児が心と体を十分に動かして遊んでいる事例を「やってみよう（挑戦）」「もっとやろう（継続）」の2つの要素を切り口にして分析し、考察する。
- 大型遊具の活用
 - ・幼児に経験させたい動きについて協議し、多様な動きを引き出せる大型遊具の活用方法について検討する。
- なかよしタイムの実施
 - ・異学年合同で行う活動や、近隣保育園・連携小学校の幼児・児童との交流活動を計画し、実施していく。

【取組（詳細）】

○ 事例検討

意欲には、幼児が環境に興味をもって自ら関わろうとする“やってみよう（挑戦）”と、遊ぶ中で幼児が自ら遊びを広げたり繰り返し楽しんだりする“もっとやろう（継続）”の2つの側面があると考えた。“やってみよう”と“もっとやろう”では意欲を引き出すために必要な援助が異なるのではないかと考え、幼児が心と体を十分に動かして楽しんでいる事例を2つの視点から検討し、意欲を引き出した教師の援助について考察した。

プールごっこでは、遊びを先行経験と結び付けながら広げるように援助したことで、幼児は「本物らしく作ろう」と意欲をもって取り組むことができた。



5歳児Ⅱ期(5月下旬～9月上旬)
事例「プールごっこ」

○ 大型遊具の活用



フルーツをイメージした環境を構成したことで、目的意識をもち、意欲的に体を動かして遊ぶ姿が引き出された。

教師は、時期や発達に合わせて環境を構成し、実際の幼児の姿を読み取りながら環境を再構成するなど、幼児に経験させたいことを考えながら、戸外や室内の環境を設定している。そこで、経験させたい動きをもとに固定遊具を設計し、援助することで幼児の多様な動きが自然に引き出せるようにした。

また、大型遊具で遊んでいる幼児の姿を読み取り、環境を再構成したり、活用方法を工夫したりすることで、幼児の夢中になって遊ぶ姿をさらに引き出していくことができると考え、大型遊具の新たな活用法について探った。

幼児がスムーズな登り方をしたり、自分なりの目標をもったりして遊ぶ姿を見られるようになった。

○ なかよしタイム(異年齢交流活動)の実施

大人数で遊ぶことの楽しさや、多様な人と関わり合いながら遊ぶことの楽しさを感じられるように、異学年での交流活動や、近隣の保育所・小学校との交流活動の機会を「なかよしタイム」として、定期的に設けた。

「カレーアスレチック」では、4歳児は、野菜になりきって転がったり這ったりなどの多様な動きを楽しむ姿が見られた。また、5歳児の姿を見て、ダイナミックな動きにも挑戦しようとする姿も見られた。

5歳児は、思い切り走ったり高くジャンプしたりと、ダイナミックに体を動かして遊ぶことを繰り返し楽しむ姿が見られた。また、自分たちでコースを考え、遊びの中で作り替えたり、巧技台などの重い物を協力して運んだりする姿が見られた。



カレーアスレチック
イメージを楽しみながら様々な動きに挑戦した。



7月に実施した、七夕のイメージのなかよしタイム
星の作り方を年長児が年少児に教えるなど、異年齢で関わりながら遊ぶ姿が見られた。